

今日のトピック

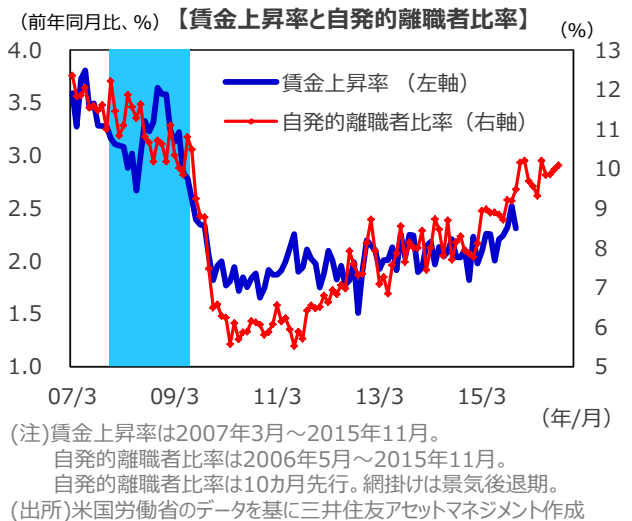
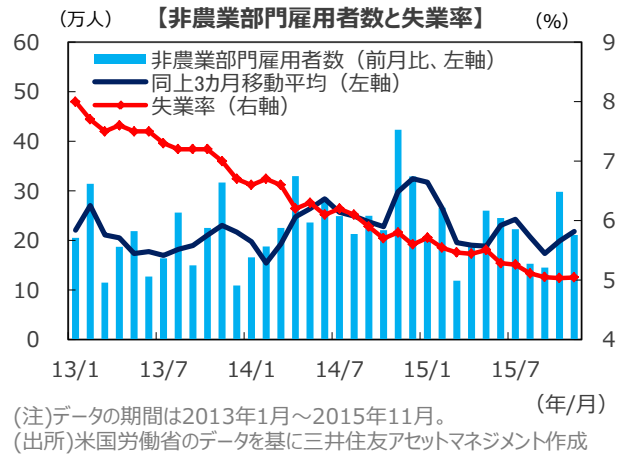
**米国の雇用統計 (2015年11月)
景気、雇用は順調に拡大**

**ポイント1 雇用者数は21.1万人増
引き続きサービス業がけん引**

- 11月の非農業部門雇用者数は前月比21.1万人の増加となり、市場予想（ブルームバーグ集計）の同20.0万人増を上回りました。
- 過去2カ月分が合計で3.5万人ほど上方修正されたこともあり、雇用の増加ペースは3カ月平均で21.8万人と、前月の19.9万人から加速しました。
- 11月の民間部門は同19.7万人の増加でした。教育・医療、ビジネスサービスに加え、クリスマス商戦を控えた小売業の雇用増が目立ちました。

**ポイント2 失業率は前月比横ばい
賃金上昇率は前年比2.3%増**

- 一方、失業率は5.0%でした。景気回復に伴う労働供給の増加を、労働需要の拡大で吸収し、前月と同じ水準を維持しました。
- 時間当たり賃金は前月比0.2%増、前年同月比では2.3%の増加となりました。前年同月比の増加率は10月の2.5%から鈍化しましたが、前月の伸び率が2009年7月の2.6%以来の大きだったことを踏まえると、小幅な反動にとどまったと評価できます。



今後の展開 緩やかな利上げ局面に入る見通し

- 11月の雇用統計の内容は総じて良好だったといえます。12月15日～16日に開催される次回FOMCで利上げが実施される可能性は、一段と高まったと判断されます。
- 12月4日の米国株式市場は、景気、雇用の順調な拡大を好感して上昇しました。物価の安定などから、利上げペースは緩やかになる可能性が高く、株価は景気回復を好感する展開が続く見通しです。

ここもチェック! 2015年12月3日 米国のISM製造業景況感指数 (2015年11月)
2015年12月1日 2016年の「FOMCメンバー」はタカ派寄り? (米国)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。